



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年5月1日

5月号・第160号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

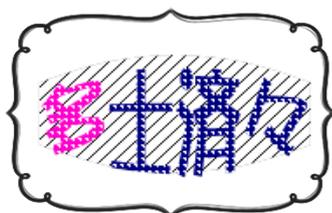


ならやまベースキャンプの春

Contents

URL <http://www.naranature.com>

多土済々.....	①	俳句百景.....	⑬
Monthly Repo.ならやま.....	②	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑭
里山の今.....	③④⑤	Galleryならやま.....	⑮
新入会員歓迎会.....	⑥	仲間入りしました.....	⑯
3月月例研修会・4月歴文研修会.....	⑦	字遊字感・旬菜旬食.....	⑰
4月月例研修会.....	⑧	ならやまプロジェクト.....	⑱
アースデー・佐保川わいわい桜祭り.....	⑨	行事案内part1.....	⑲
「鳥」シリーズ.....	⑩	行事案内part2&奈良学クイズ.....	⑳
やさしい病害虫講座.....	⑪	幹事会報告.....	㉑
青垣春秋.....	⑫	申し合わせ・編集後記.....	㉒



草刈り機動隊長

八木 順一 さん

顧問 川井 秀夫

今日も重い器具を身に付けて、果てる事のない里山の草刈場で汗と刈り葉にまみえて地道に



活動して頂いております。環境整備の先導役としてグループを束ね、奮闘される姿に頭が下がります。

その人、八木 順一さん。シニア15期、平成21年入会。現在、副会長として中核メンバーとしても役割を担っておられます。現役時は公務員として過ごされ、人格円満、常識人として冷静かつ行動派であり、豊かな人間性に敬服しております。

先年、歴・文クラブで関ヶ原古戦場を巡りましたが、ふるさとは岐阜大垣との事、関ヶ原から指呼の距離にあり、徳川家康の本陣桃配山を訪れた事を思い出します。

豊かな体躯にお年以上に見える風格は、陣羽織を着て軍扇を持てば家康を髣髴する様な雰囲気を感じたものでした。(失礼)

いつも大型バイクで登場され、ライダーとして各所を疾駆され、スケッチ行脚・機械修理・など、昨年からの俳句塾で句作りに挑戦され

幅広い趣味のジャンルを楽しんでおられます。また、自前の菜園で各種の野菜栽培・果樹なども育成されておられるとか。

当会の活動行事にも参加意識の旺盛な方で、疾病をお持ちのようですが、初期の頃は坂道など気遣うことが多く心配しておりましたが、現在は頗るお元気でホッとしております。

里山での昼餼でご一諸に弁当を開くと、私と対照的に肉食と菜食が歴然、「八木さん高カロリー過ぎない」「いや解っているんですが元気が出ないんですよ」と。一回り若い彼にはハイオクガソリンが必要なのかも。

この方とはウマがあうのか私的な話まで良く喋ります。人生論・家庭の話・他愛な話など、当会の将来についても建設的な持論をお聞きます。

会創立十五年、ならやま十周年が近づきます。次世代の立役者として大いなる活躍を期待しております。

老婆心ながら、

1. バイク運転中は景色に見とれないこと。
俳句を考えないこと。
2. 体重を5kg減量に努めること。



家康さん頑張れ。

Monthly Repo. **ならやま**

3月19日(金) 臨時 曇り 25名

またしても雨で臨時活動となり、少人数で十分な活動は出来なかった。新しい耕耘機の活躍により畝づくりがスムーズになった。イベントの工作材料作り。彩りの森の除草、オドリコソウの植え付けなど。

3月26日(木) 晴れ 71名

新入会員の歓迎会をお昼に実施。1週間延ばした甲斐があり、おでん、ヤキソバ、肉・野菜のバーベキュー、野菜サラダ、などを美味しくいただいた。スタッフに感謝！感謝！

BC 駐車場に隣接し傾きが大きくなったコナラを伐採し安全を図った。イベントの工作材料の準備を継続。野菜畑の耕うんとハウレンソウの種まき。彩りの森の除草、タナゴ池のアオミドロ掬いを実施。防寒具にくるまっていたアマクリナムも春の衣装に衣替え。

4月2日(木) 活動 晴れ 63名+5名

4月の人事異動により私たちに関係の深い県の景観環境局でも若干移動があり、関係者が挨拶に来られた。会長を始め幹部一同おおいに恐縮。

里山復活をかけてクヌギ苗を 27 本、苗床から掘り取って皆伐地区に隣接した空き地に植えつけた。早く大きく成長することを期待。

5月のイベントは3日間にわたるため、工作材料も大量に必要で準備も半端でなく家内工業なみの作業となった。

天候不順で野菜の種も芽をだすのを嫌がり、生長もいまひとつ。一部のナス・トマトをやっと移植。ネギの播種も行ったが、あとは気温上昇待ち。

タケノコが顔を覗かせ始めたのでタケノコ隊が出動した。ならやま池の水生生物調査を開始、エビもマツモムシもまだお休み中であった。皇帝ダリア花壇の除草、シランの植え付けを実施。

パトロール隊が何度も山を歩きまわり、観察路の新しい地図を作成中とか。乞うご期待！

4月9日(木) 活動 晴れ 60名+1名

花メンバが中心となって山菜(タラ、フキ、ヨモギ、コゴミ、タケノコ、シイタケ、ユキノシタ等々)の天ぷらを揚げてくださった。美味しかった！！

三重県で有機農業を推進している「愛農会」の機関紙の編集担当者が来られ、私たちの活動状況を取材された。

里山林内からコナラの実生苗を掘り取り、新たに設けた苗圃に植え替えた。たぶん1年後には30~50cmには成長していることだろう。

ジャガイモが顔を出し始めたので、芽かき、施肥、除草などサービスに努めた。期待度の高い黒米用の水田の整備を開始。

草が大きくなる前に BC、水田、彩りの森で先制攻撃の除草。タケノコも 80 本ほど収穫。BCテント横の空き地にプラムなどの果樹苗が植えつけられた。

4月16日(木) 活動 晴れ 69名+2名

旬の野菜？タケノコ！ ならやま産のとれとれを味わってもらおうと会員有志がタケノコご飯を提供。お吸い物もつき、皆さん旬の味を堪能しました。ありがとうございます。さらに竹筒をもちいた竹飯づくりの飛び入りもありました。

イベントの工作材料の準備が完了、これで天平祭もクリアー。里山若返りのための皆伐地区の指定も完了。たけのこ隊の活躍により全員にたけのこがゆきわたった。

ナス・シシトウ苗の植え替え、サトイモの植えつけも完了。ならやま池の生物の出現はまだ少ないとのこと。花壇も除草が忙しかった。



(木村 裕)

里山グループだより

杉山耕二

先月のこのコラムで、里山の植生の世代更新について述べました。切り株からの萌芽更新を促したり、新たに苗を植樹して育てるといことです。

今、植樹している苗は、副会長の木村さんがクヌギのドングリを植え、森さんが夏の暑い時期に周りの草刈りをして育ててもらった2～3年生のものです。写真「1」は、JR側の登り口あたりで1月に里山グループのメンバーで植えた20本、写真「2」は、2月にGGプロジェクトで植えた23本です。

「1」クヌギ植樹(1月)・「2」クヌギ植樹(2月)



「3」コナラの萌芽と実生



写真「3」は、数年前に部分皆伐したA地区(ビオトープの北側)で、コナラの1株から萌芽し、既に3m程度に育っている樹です。その手前では実生からと思われる幼樹もあり今後注視していきます。



エコファームだより

松本武彦

這えば立て立てば歩めの親ごころ
命育むエコファーム

幼子の発育を喜び、さらなる成長を願って、小さな命の輝きにエールを送る。

野菜とて一つの命。健やかに育てとのエールは幼子へのそれと同じ。命の育みです。

春は目覚めの季節。畑では4月初めに播かれた大根、ほうれん草、大和まな、チンゲン菜、牛蒡などが遅く葉を広げ、存在感を増しています。多くの方の世話に加え、冬場に入れた堆肥も順調な生育を後押ししているのでしょう。

隣の畑では、まだ数少ないものの、いちごが白い可憐な花をつけて季節感を増幅しています。

いよいよ生命のほとばしる季節の到来。それは同時に雑草との闘いの到来でもあります。小さな命が皆様のお手許に届くまでには今しばらくの試練が必要です。

一方、かまぼこ型のビニールハウスでは夏野菜の育苗が行われています。この温室は、今年の3月に設けられたものですが、快適な室温に支えられて何種類かの苗が育っています。ナスやトウガラシなどごま粒のようだったタネも、3cmほどの背丈に何枚かの細長い葉をつけるまでに生長して移植の時期を迎え、先日、この移植作業が行われました。吐く息にも揺れる幼苗を、苗床から一回り大きなポットに移す作業は、かなり緊張感の伴うものようでした。この、移植という生育環境を変えて苗を育てる作業には、その昔、孟子の母が、孟子のよりよい教育環境を求めて、三度も住まいを変えたという「孟母三遷」に似た精神を見るようにも思われました。

播種、芽生え、生育、実のつくものは結実、そして収穫へと「命の営み」に寄り添い、ともに喜び、ともに楽しめるのがエコファームの魅力であるようです。

ならやま花だより

吉村 さつき

4月16日(木) 山の中の目立たぬ所でショウジョウバカマがひっそりと花を咲かせています。

ユリ科の多年草でやや湿った傾斜地に生育します。花期は3~4月で花茎の高さは10~20センチ、先端に紅紫色の数輪の花を咲かせます。葉は光沢があり広い線形で根元からロゼット状に広がっています。

繁殖は種子の他に葉の先にできる不定芽によっても殖えます。ショウジョウバカマは当年、1年、2年と3年分の葉を持っていて環境が整えば大きくて古い葉の先端に不定芽ができるそうです。

名前の由来は中国の伝説上の動物猩々の赤い顔になぞられ、放射状に重なる葉が袴に似ている事から名づけられたようです。



不定芽

[草花]ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ハコベ、オランダミミナグサ、タンポポ、タネツケバナ、ナズナ、

ヘビイチゴ、ムラサキサギゴケ、レンゲ、キュウリグサ、カラスノエンドウ、コオニタビラコ、ホトケノザ、スイバ、ハルノノゲシ、ショウジョウバカマ、ムラサキケマン、ヤエムグラ、カキドオシ、タチツボスミレ、ニョイスミレ、シハイスマイレ

[木の花]アケビ、コバノミツバツツジ、コバノガマズミ、ダイオウグミ、タチヤナギ、ザイフリボク、シロヤマブキ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ、サトザクラ

[花壇]ムスカリ、デージー、ムラサキハナナ、シヤガ、チューリップ、ハナニラ、ヤグルマギク、スズランスイセン、マンテマ、十二単、パンダスマイレ、ナノハナ、ラッパスイセン、イチハツ、アイリス



里山の今

ペタキン日記 36

羽尻 嵩

3月27日(金) 近畿大学のペタキン池担当の入江君が卒業し、お別れの挨拶に来た。この日は好天でペ

タキンもヨシノボリもお別れに姿を見せた。

4月2日(木) 3カ月ぶりにならやま池の水生物調査を5人でした。池の北側でタニシが2個見つかったが、生物はまだ少なかった。

その後、池に至るあぜ道の整備、湿地の溝掃除、木道の修復、タナゴ池の泥除去やザリガニ駆除などをした。

4月9日(木) この日はドジョウの養殖という新しい企画がスタートした日となった。

ドジョウを養殖する池は一時的にタナゴを保護するために造っていたもので、これまでは仮称として「保護池」と呼んできた小さな池だ。

この養殖をやってみようと手を上げられたのは竹本さんだ。この日この池で8匹のドジョウを捕獲・確認した。また、4月16日には東池で捕獲した大きなドジョウ10匹ほどもこの池に放した。ドジョウの養殖に関心を持っておられる方は、竹本ドジョウ博士に協力してください。



4月16日(木) 雨続きの合間の晴れの日となったこの日の朝、池に近づくと突然何かが飛び立った。見るとカルガモのつがいだった。

去年はならやま池の築山でカルガモが抱卵しているのを見た。しかし、散歩していた方がカルガモ親子を見たとは聞いたが、ここで活動している我々は見ることが出来なかった。

ならやま池の築山の周りに葦が茂って日陰になるように手は打っており、今年こそはカルガモ親子の姿が見られるかなと期待している。

ならやま虫だより

菊川年明

◆ ハンミョウ

体長は20mmほどで、赤と青の金属光沢に白い斑が混じった大変美しい甲虫である。その美しさはタマムシと双璧をなす。4月から10月頃まで見られる。成虫で越冬する。大きな鋭い顎を持ち、昆虫などを捕食する。

本種の幼虫は土砂の露出したところでないと生きられないので生息場所は限られる。ならやまでは第5地区の奥の砂礫の裸地に棲んでいる。幼虫も大きな鋭い顎を持ち、巣穴に潜んでいて、通りかかったムシを素早く捕食する。

ハンミョウはミチオシエという別名を持っている。昔の地道にはよく見られた昆虫で、人が近くへ来ると、人の歩む先の方へ少し飛んで行き、地上に降りる。人が近づくと、また飛び立って数メートル先に降り立つ。この仕草があたかも人に道を教えるように見えるところからの名付けである。

私が高校生の頃、友人が当時昆虫の宝庫として知られていた大阪の箕面へ昆虫採集に出かけたときに「奥の方の地理不案内のところではハンミョウの大集団に出会い、導かれるままについて行ったら止々呂美（とどろみ）という思いがけないところ（池田から亀岡に通じる摂丹街道沿いの集落）へ辿り着いた」という話を真顔で聞かされたことがある。まさか？の話であるが、この人は20歳代前半の若さで病没したので、彼のことはときどき思い出し、このことも必ず一緒に思い出す。

ハンミョウの漢字表記は「斑猫」である。ムシ類の精悍なハンターであるからネコに喩えたのかもしれない。また、英語ではタイガービートルである。ビートルは甲虫のことであるから「虎甲虫」ということにでもなるのであろうか。これも言い得ている感じである。(写真はハンミョウ)



パトロール班レポ

山本美智子

◆ 春の観察勉強会

4月2日、快晴 新年度初のパトロール。春の観察勉強会として、担当は

全員の予定でしたが、パトロール班8名と、羽尻さん、新人の中島さんを迎えて総勢10名。

ベースキャンプの、満開のサトザクラを後に、2コースの観察路へと出発。途中の畑の畦には、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ナズナ、オランダミミナグサ、ヘビイチゴ、ハコベ、ケマンソウ、タンポポ、スマイレ、レンゲ、...その間をキタキチョウが舞い、足下にはツチイナゴが飛び出したり。「これは?」、「あれは?」、「それは?」、質問する人も答える人も大忙し。木々の下には、ショウジョウバカマ、シハイスミレ、ヤブコウジ、シャガ、タチツボスミレ、常緑の木の間の裸木に、柔らかな新芽、新葉、花芽が開き、サルトリイバラ、マルバアオダモ、クロモジ、ウワミズザクラ。ひときわ目を惹くミツバツツジやヤマザクラの彩りに目も心も奪われ足も止まりがち。

晴れ渡る空の木々の間に、オオタカの飛翔の影が一瞬見えたり。春告鳥の心地よき声を聞きつつ、遠景の大極殿も久しぶりにハッキリと望め今日は、嬉しい自然観察勉強パトロールでした。来週からはしっかり本来パトロール頑張りマース。



ムラサキケマン

平成27年度新入会員歓迎会

ならやまベースキャンプにて開催

平成27年3月26日(木)、雨により1週間の順延と成った新入会員歓迎会が、当会の活動拠点、此処ならやまベースキャンプにて盛大に開催されました。

年度末の多忙な時期にもかかわらず、参加者は今年度の新入会員15名の内この日都合の付いた9名と既会員61名の総勢70名、昨年を上回る規模と成りました。



『待てば海路(甘露)の日和あり』の言葉通り、焦る気持ちをグッと抑え、我慢した甲斐あり。

雲一つない最高の天気を迎える事が出来ました。

当初予定していた歓迎会当日の日柄も祝い事には最適の「大安」でしたが、順延となったこの日はなんと「友引」、新たな友人を迎えるには最高の日柄となりました。

今年も歓迎会の企画、準備、運営は、昨年入会したメンバーが中心となり実施。歓迎会の食事メニューはバーベキュー、焼きそば、おでんと決め、前日より食材準備をして頂きました。

経験豊富な池田様御夫妻の強力なバックアップがあったとは言え、事前の役割分担に基づきしっかりとしたチームワークでホスト役を務めて頂きました。

午前9時受付開始。自分達が中心となり進める初めてのイベント担当に多少の緊張感を持ちながらも、皆さんやる気満々。午前中、他会員は通常通りの活動に勤しむ中、竈の準備、会場設営、カップ酒準備に追われました。



る初めてのイベント担当に多少の緊張感を持ちながらも、皆さんやる気満々。午前中、他会員は通常

通りの活動に勤しむ中、竈の準備、会場設営、カップ酒準備に追われました。

当会のカップ酒は新入会員の門出を祝う看板

メニュー。爛付け用竹林の竹切り出しから始まり、竹のお猪口も自前で取りそろえ、ガン封じで有名な大安寺笹酒祭りの笹酒宜しく、いやが上にもお祝いムードが高まります。



勿論この日はノーマイカーデー。

午前11時45分、いよいよ歓迎会の始まりです。先ずは、藤田会長の御挨拶。「明るく！元気に！楽しく！そして決して無理せず」の会のモットーが紹介され、「新入会員の皆様にも早く当会の雰囲気慣れ親しんで頂き、楽しく元気に活動に参加して頂きたい」との挨拶がなされ、川井顧問の乾杯の発声を皮切りに待ちに待った歓迎会が始まりました。

おでん、バーベキュー、焼きそばの仮設屋台の前にはみるみる行列が出来上がり、自然と会話も弾みます。今日一日、お酒が飲めない方にはノンアルコールの甘酒も振る舞われました。



少し落ち着いたところで、新人の方々には自己紹介をして頂きました。

続いて、当会の活動内容をグループ毎に簡潔に説明紹介頂き、先ずはお互いの名前を覚えるべしと名札着用の励行が謳われました。

新入会員の方々も杯を重ねる毎に饒舌となり、皆さん打ち解けた様子。アンケートにも「ならやまで活動した後はいつも心が豊かになった気分で帰宅する」との最高の言葉を頂きました。

担当されたメンバーの皆さん、素晴らしい歓迎会を企画・演出して頂き本当に有難う御座いました。これからも新入会員の方々共々積極的に活動に御参加下さい。第2、第3の人生をみんなで謳歌致しましょう。(辻本 信一)

月例研修会 (歴史共催)

早春の山辺の道を歩く

3月24日(火)快晴。陽光は春の輝きだが、風は真冬並みの冷たさだ。参加者は24名。

JR長柄駅すぐの官幣大社「大和神社」では遣唐使が航海の安全を祈ったという。かの戦艦大和にはこの神社の分霊が祀られていた。川井さんは「靈験があったとは思えないなあ」とぼつり。

これから訪れる「大和古墳群」は古墳時代初期の古墳群で国史跡に指定されている。「下池山古墳」の頂上からは古代史の舞台、青垣に囲まれた奈良盆地南部が一望である。山辺の道を北上すると萱生には良く剪定された刀根早世柿の畑が広がる。哀れミカン畑となっている「西山塚古墳」に隣接する萱生集落を過ぎ、竹之内環濠集落に入る。前方の山裾にかかっていた黒い雲が見る間に近づいてきて、強風と共にみぞれが激しく降り始めた。

「夜都伎神社」の拝殿は茅葺屋根で印象的だ。この社地はもともと竹之内が所有していたが、水不足に悩み乙木の「ため池」と交換したとされる。



「内山永久寺跡」にかかる。永久元年(1113)創建時は大和有数の大寺院だったが、明治の廃仏毀釈で廃寺となった。立て看板の絵図で往時を偲ぶしかない。

「石上神社」は神さびた厳かな雰囲気醸している。摂社「出雲建雄神社」の唐破風の拝殿は永久寺から1914年移築されたもので、国宝に指定されている。ここで解散。三々五々天理駅へ向かった。
(歴文クラブ 中井弘)

歴史研修会

長岡京跡と桜を訪ねる

4月14日(火)生憎の雨である。26名が参加。バス車内で川井代表、坂東氏、杉本氏から長岡京遷都の背景などの講義を受ける。

平城京が抱えていた陸路を使わざるを得ない物資輸送問題を解決するため、桂川、宇治川、木津川の合流地点に新都を建設したとのこと。

向日町文化資料館では、発掘された遺構から平安京や平城京と同規模と判り、仮住まいの都でなかったことが明確である。昭和30年に朝堂院跡が発掘されてからようやく「幻の都」の全体像が明らかになってくる。宮殿は発掘された瓦で難波宮から移築されたものと判明。わずか10年で平安京に遷都するが、藤原種継が暗殺されて以来、桓武天皇周辺で変事が相次ぎ、更に二度の洪水で都が大被害を受けたためとされる。また、相良親王の怨霊に怯えた脱出だったとの説もある。

ガイドの案内で、天皇が10年間政治を司った「大極殿跡」、役所であった「朝堂院跡」、大伽藍であった「石塔寺」、種継が射殺された「島坂」、奈良時代創建で日本書紀神代記下巻を所有する「向日神社」などを巡った。

次いで旧御室御所「仁和寺」を訪れる。中門を



入ると御室桜の群生が目飛び込む。樹高は低い根元から咲き

乱れ、春雨に打たれた花びらが地面を覆っている。起源は平安時代にさかのぼるが、現在のものは江戸時代初期のものという。

バスは予定時間に奈良に帰着。古代史に、花見に楽しんだ一日であった。

(歴文クラブ 中井弘)

4月月例研修会

幻の大仏鉄道跡を巡る

予報降雨率40%。当日の朝は生憎の小雨模様、この時季にしては真冬並みの低温、お花見ハイクとしては無情の一日となる。想定内ではあったが参加者も11名と淋しさはあったものの藤田会長始め、山本 妙子さん、岡崎 節子さんなど勇者が揃う。

この大仏鉄道とは大仏詣での足として明治31年から開業。鉄道事業の発展に伴う関西本線の奈良駅乗り入れを機に僅か九年間で廃線となる。既に鉄路は撤去され痕跡は消えたが、煉瓦作りの橋台(アボット)や隧道が往時のまゝ残されている。

JR木津駅東口からスタート。小さな村落を抜け鹿背山に向け歩く。小川に架かる「燈台橋」の常夜灯、橋の袂に道祖神か身代わり地蔵が立ち、峠道の大屋敷の桜の老木が春を惜しむかの様に散り始める。大樹になるのは「エドヒガン」が多いと言う。

間もなく鹿背山。古寺の西念寺を通り、濡れた足元に注意を払いながら標高差80米ほどの山道を登る。頂きの平坦部から見る眺望が素晴らしい、京の西山、近く鷲峰山、眼下に雄大な淀に向けて木津川の流れ。ここは戦国の謀将 松永久秀の出城として有名、堅牢な石積みの防壁に往時を偲び、安らぎのひとつときを楽しむ。

山を下り、柿畑、田園地帯を過ぎて「鹿背山不動尊」に着く。山肌に不動明王が鎮まり古刹の雰囲気漂う。裏山に「しょんべたれ地蔵」大きな岩に刻した仏の表情に靈気を感じる。「しょんべ」とはこの地方の方言で夜尿症に効験があると言う。もう一体、こちらは「春日のおばはん」。都の鬼門にあり守護の仏とされる、お腹がふっくらと出ているのでこの名があるとか。



午後からは雨も上がりお目当ての遺構を見て歩く。「梶ヶ谷隧道」「鹿背山橋台」「観音寺橋台」など煉瓦作りに明治の匂いが溢れ、今にも橋上に蒸気機関車が現れるのではと、そんな雰囲気すら憶える。

時は移り、この辺りまで住宅地開発が進み、新道が増え、桜並木が消え、様相が変わりつつある今日、鉄道遺構も呑みこまれる危機にあると言う。明治の文化遺産も時代と共に伝承だけが残されてゆくのであろうか。そんな思いを感じる一日であった。

加茂駅に向かう頃には晴れ間も広がり、少し恨みを抱えながら駅前の公園で締める。世話役の寺田さん、青木さん、ご苦労さん。



(川井 秀夫)

アースデー2015 in なら

4月19日(日) 明日香村の石舞台芝生広場でユープなら主催のアースデーが開催され、当会からスタッフ10名が参加し、熊のストラップとブンブンゴマの自然工作の実演指導を行いました。

天気予報通り小雨の降るなかで開店準備を行いました。またしても雨、これで3年連続の雨となりスタッフ一同沈みがちでしたが、開店の10時頃から天気も回復に向かい、午後には陽も射してきました。万歳！ヤレヤレ！

開店当初は子供達の姿もチラホラで、お客の呼び込みに精を出して

していました。午後になり天気の回復とともに子供達がつぎから次へと切れ間なくやってきて、



6脚のイスでは足りず立ったままで工作に取り組む子供さんもいました。もちろん、スタッフも大忙しでした。

熊のストラップでは、細かな部品を張り合わせるので手にいっぱい糊をつけ、ブンブンゴマでは指にまで色を着けたりしながらも工作を楽しんでもらいました。スタッフは子供たちから喜び一杯のお礼をいただきました。



今回提供した熊のストラップ、ブンブンゴマ、どちらも好評で100セットほどの材料

が出払いました。当初1セットで100円の販売とと思っていましたが、雨で出足が悪いと予想して無料にしました。それ以上にみなさん楽しく自然工作をしてくれたことが何よりでした。

(木村 裕)

佐保川わいわい桜祭りに出店



数日前からの天気予報が一転し、絶好の花見日和となった4月4日(土)、奈良市立佐保川小学校のグラウンドと周辺地域で開催された「佐保川わいわい桜祭り」に昨年に引き続き出店参加しました。今年も、自然木クラフト(笑顔でムカエル・もっくん・ボールペン・棕櫚の葉のバッタなど)に唐揚げとチュウロスの食品バザーも新しく加えました。

唐揚げは前日から池田さんの入念な仕込みもあり、チュウロスとともに予定数が2時間足らずで完売となる盛況ぶり。完売後にも来客があり、急遽仕入れに奔走。準備が整う前から待ちわびる人の列ができ、スタッフの皆さんも休む暇もなく調理におおわらわの1日となりました。

一方、自然木クラフトでは、「笑顔でムカエル」は、6匹のカエルを自分のイメージで色づけや動眼の貼り付け、台の竹に取り付けと手際よく進め、オリジナルの作品が出来上がると、「ヤッター」とさらに「もっくん」「ペン」作りにもトライ。全てが完成すると、成就感溢れる表情を見せてくれました。中でも2歳の男の子が、チャレンジしてくれたのが印象的でした。

椎茸のほだ木は、意外にも若い方に人気があり、子どもさんと楽しめる様子でした。

次回に向けての課題として、①クラフト関係のレイアウト、②椎茸の育て方のチラシの準備やパネル展示、③活動地や市民向けの開放イベントのこのパネル展示などがあげられるかと思っています。



鈴木 末一)

僕が
作ったんだ!
満面に笑み

鳥シリーズ

4月

「ヨケイ」

鶏だって渡りたい

漫画家であり、熱烈バードウォッチャーとしての著書も多くある岩元久則さんの本から、面白い記事を見つけましたので、以下そのまま掲載します。

皮肉や警告めいた視点から洒脱でテンポのある文章に纏めてあります。

勿論真面目なお話も多いのですよ。

(著者に替わって)

《野球が始まった。野球が始まったからといって別にドーってこともないけど、というのも野球になんのかんもなくて、どちらかと言えば嫌いでさえあるのに、野球が始まったと感慨込めて口走るのには、いささか理由がある。

野球のシーズン前後頃は、渡り鳥の移動する時期であり、野球場のナイター用ライトに眩惑されて、鳥がぶつかるという事故が多いからである。

小説「海峡」はそんな野球場にアカエリヒレアシシギが落ちるシーンから始まる。



アカエリヒレアシシギ (右向き)

鳥は夜間でも目が見えるので、渡り鳥は、危険の少ない夜間に移動するものも多い。私は夜、知らずに渡り鳥のコースに立っていて、小鳥の大群が耳元をかすめて飛び、その羽音の大きさに感動したことがある。

それはこんなところを渡っているのかと驚かさ



小田久美子

れさえする、ビルの屋上でのことであった。

また東京のど真中で、十何羽ものコミミズクという鳥を見つけたこともある。

渡り鳥が公園や、農家の庭などで見つかることが多いのは、暮夜密かに、私たちの近辺を通過しているからである。

渡ると思われていなかったスズメや、ヒヨドリまで、ありとあらゆる鳥が渡っているということも判っている。

そんな中で江戸時代の昔から言われているのが、夜渡る鶏がいるという話で、名付けてヨケイ。余計ではない、夜鶏である。

ある夜、農家の主が目覚めて庭を見ると、タバちゃんとしたはずの鶏が、小屋から抜け出している。

「しょうがないなあ、どこか穴でも開いているのか」と小屋をのぞいて数えるとちゃんという。

隣の鶏かもしれない、腹が減ったら隣に帰るだろう、とそのままにうっちゃっておく、と主が背を向けた瞬間に、バタバタと彼方に飛んで行くのだそうだ。

大概是、そこまでも気がつかず、庭にウチの鶏がいる程度に思っているのである。

現在でも、空き地や公園でブラブラしている鶏がいたら、ひょっとすると渡りの鶏、ヨケイかもしれない。

鶏だって渡りたいのだ。

私は以前、空港でジャンボのタラップが、「自分の周りは、みんな飛んでいる、自分も一度でいいから、みんなのように飛んでみたい」と呟くのを聞いたことがあるのである。

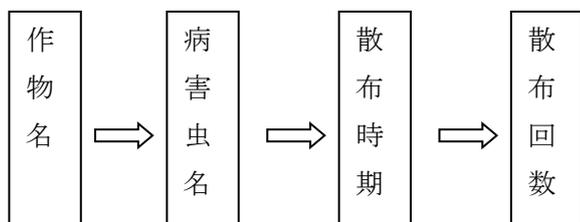
シンメン目トンダロ科 体長? 夜、妙な羽音が庭先の方から聞こえたら、多分、きっと、だいたい…この鳥だと思って間違いはない。恐れることはない。それは余計な心配なのだから……。》

石上神宮の鶏が木の上位しか飛べないと人間が勝手に思い込んでいますが…。

車は人や物を運ぶのに大いに役立ち生活に無くてはならない物ですが、一步誤ると傷害や殺人の道具となる危険な乗り物です。一方野菜や花で良質で安定した収穫物を得るためには農薬は無くてはならない物です。しかし、使い方を誤ると散布者の事故、安全性に欠ける収穫物など問題を生じます。しかし、車の安全運転、農薬の安全使用を心がければこれほど便利で役に立つものはありません。上手に活用しましょう。

農薬をうまく使えば危険な物ではなく、品質がよく安全で有機農産物なみの収穫が得られる便利な物です。見方を変えれば、有機農産物よりも安全な物かもしれません。一般に農作物は害虫の攻撃を受けると、その攻撃を防ごうと抵抗物質を生成する傾向がありますし、ヨトウムシなどは葉の上に大きな虫糞を残します。これらの物質が安全かどうかは確認されていません。

注意点の第一は、添付されている注意書きをよく読むことです。作物名、病害虫名、使用濃度、使用時期などが記載されています。そこに散布しようとする作物名がなければ使えません。それを無視すると、作物が枯れたり、収穫時に農薬が残ったりすることがありますので必ず守ってください。この点に関して農家は非常に神経質になっており、安全使用をこころがけています。

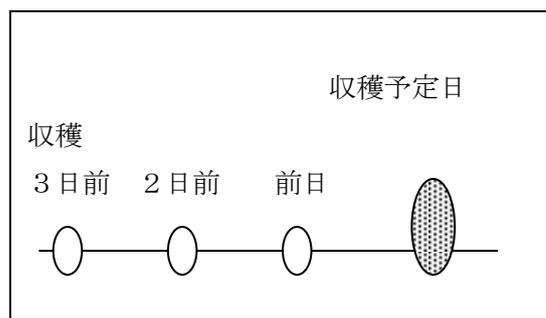


注意点の第二は、どの害虫に効果があるかです。そこに記載されていない害虫については効果の保障はありません。それゆえ今どんな害虫が発生しているかをきちんと把握する必要があります。

注意点の第三は、使用濃度です。水で溶かす農薬は必ず規定の倍数に薄めてください。多くの薬剤は1000倍～2000倍に薄めますが、4000～10,000倍に

薄めるものもあります。霧吹き型噴霧器では容量が1リットル程度ですので、1000倍に薄める場合には薬剤量は1ccに過ぎません。ほんの2～3滴です。これで十分です。入れすぎないように！多く入れても虫に対する効果は増えませんし、逆に作物の葉が枯れるなどの副作用が起こります。よくある誤りは一桁間違いです。1000倍で使用とするとき、1リットルしか入らない霧吹き散布器に10ccの薬剤を入れることです。野菜にとっては迷惑このうえないことです。

注意点の第四は、散布してもよい作物であっても散布時期と散布回数が制限されています。散布回数はその作物が一生の間に何回まで散布できるかを示したものです。散布時期は収穫予定日から逆算しての使用限界日のことで、3日前と記載されておれば、散布後3日間は収穫できませんが、その日を過ぎれば残留農薬もなく安全であるということです。最近の農薬では、散布前日でも使用可能なものが増えていきます。



以上4点を守っておれば、無農薬栽培と同じように安全で良質な収穫物が得られます。農薬をうまく使ってよい野菜を栽培しましょう！

また、野菜の葉や虫の体に薬液の付着を良くするために展着剤というものがあります。これ自体はなんの効果もありませんが。農薬を溶かした水の中にほんのわずか加えることによって農薬の効果が増します。乳剤では加えなくても良いのですが、どの薬剤に必要でどの薬剤では不要かの判別が難しいので基本的には加えてください。また、ネギやキャベツなど水をはじきやすい野菜では必ず加えてください。



神々の故郷 出雲の国回マン

歴史文化クラブ
古川 祐司

出雲は神話の故郷です。「八岐大蛇」「因幡の白ウサギ」「国譲り」などの有名な神話は出雲の神々が主役です。宮廷が編纂した古事記や日本書紀でも神話の約1/3を出雲神話が占めています。

延喜式神名帳によると、出雲系の神社は日本海沿岸から近畿、中・四国、東日本、北九州に広がっています。大和の三輪山の神、葛城鴨の神、京都の上賀茂神社も出雲系、信濃の諏訪大社の神も大国主命の子の建御名方神です。旧暦10月の神無月には、全国の神々が集まる出雲では「神有月」となります。

このように神々を生んだ出雲とはどんな国だったのか。これまでは弥生時代の考古学的な情報も少なく、古代史上で最大の謎とされてきました。

1984年、歴史的な大発見がありました。出雲の神庭荒神谷遺跡（島根県斐川町）で、弥生前・中期の銅剣358本と銅鐸6個、銅矛16本が発見され、続いて1996年には3キロ離れた加茂岩倉遺跡で弥生中期の銅鐸39個が出土しました。発見された銅剣は、それまで全国で出土した銅剣の総数を上回り、これらは弥生中期には出雲に一大勢力があったことを物語るものでした。

日本海の沿岸では対馬暖流が流れ、季節風の影響で沿岸に多くの潟湖が形成されて港ができます。古代には朝鮮半島から北九州、山陰、北陸に至る「海路」が存在しました。出雲には、弥生前期以降、朝鮮半島系の土器、卜占、埋葬風習が伝わり、北九州からの銅剣、近畿の銅鐸などの祭具が集まり、日本海物流の拠点として繁栄しました。

弥生後期には青銅器の祭祀が終わり、4隅突出型墳丘墓による祖霊信仰が始まります。出雲は卑弥呼の時代より約100年早い時期に吉備と並んで有力なクニになっていたと思われます。

出雲の神々も物の交流を通じて各地へ広まったと考えます。古事記に5つの名前を持つと書かれた大国主命（大穴持命）は、縄文的な呪術神、弥生的な農業神、医術の神、各地の女神に求婚して国を拡

げ鋤を取って国造りを行う開拓神、八千矛を持つ英雄神など幾つもの顔を持つ神です。大国主命への信仰は、縄文から弥生へと移行する時代のクニグニに共通の神として受け入れられ、支持されたのではないのでしょうか。



「出雲国風土記」には、8世紀の記紀に取込まれる前の神話や伝承が垣間見えます。例えば、出雲では「国引き神話」の八束水臣津野命が国生みの神です。スサノオは神須佐乃麻袁と表され、大蛇退治はせず出雲各地を巡行する平和な国造りの神です。大国主命は所造天下大神（あめのしたつらししおおかみ）として、数多く登場します。

ヤマト王権の全国統合が進む四世紀から六世紀にかけて、キビ、イズモ、コシ、タニハなどの有力な国々も支配下に置かれます。その過程で、ヤマト王権が、出雲の神を大変重んじたことは、日本書紀の崇神紀以降の数々の記載から窺えます。

一方では、素戔鳴命、大国主命などの有力な出雲の神々はヤマト王権の神の体系の中に取り込まれ、天神（あまつかみ）に仕える、国神（くにつかみ）と位置づけられます。祭祀の面から王権強化を図るためです。稲佐の浜を舞台に繰り広げられるドラマチックな「国譲り」神話の場面は、ヤマト王権を正当化する最大の演出だと思えます。

歴史文化クラブは5月に出雲を探訪します。神話の故郷を巡って、どのような神々と出会えるのか。この続きは、後日のレポートでお届けしましょう。

庭の隅黄色まぶしきチューリップ 小山与喜男

初投句。ご本人は実作は苦手と仰有る。どうしてどうしてご立派。チューリップは日本名で鬱金香と書く。黄色は正に鬱金色の輝き。

薄曇り鳥の群舞か散り桜

小山与喜男

さくらの花弁が小鳥の群れに見えたと言う。作者は薄日が醸す陰影に現実と空想のはざまに遊ぶ。桜は春の千両役者か。

堤塘の川路桜や百世咲く

鈴木 末一

堤塘は長く読くと土手堤のこと。佐保堤の川路桜は一際目立つ。川路聖護の思いや如何に。来年も元気で咲いて呉れよ。

咲き染める佐保に下弦の朧かな

鈴木 末一

夕桜、夜桜は妖しい美しさを漂わせる。月も朧の春の宵。作者は片手にコップ酒でも酌んでいるのかな。羨ましい限り。

春霞に夜都伎の神も縮みをり

羽尻 嵩

3月例会。山の辺は季節外れのお天気。時にアラレが降る。人ならず、神も奥にお隠れのまゝ。神も自然に勝てないか。

山の辺の命芽吹かせ驟雨去る

羽尻 高

山野の木々は冷雨も命の水よ。人間様は雨が止みホッと。雨二毛負ケズ風二毛負ケズ。宮沢先生も言ってるよ。

白馬の絵馬も泪の花見かな

古川 祐司

4月歴・文。白馬はお天気願掛け、黒馬は水を呼ぶのだそう。長岡京・仁和寺は春雨の中、雨の風情も良いじゃないですか。



俳句百景

監修 川井秀夫

春の風叢林拓く漢あり

坂東 久平

作者は昨今、里山の山仕事にとっぷり。ヘルメットも板につく。お怪我の無い様に。これからマムシにも気を付けて。

木瓜満開わが身呆けの蕾かな

坂東 久平

木瓜の花に見とれわが身を振り返る。自虐の一句。そんなに引け目を感じなくても、結構輝いていますよ。

花日和落ち着かなくて布団干す

青木 幸子

好天の花時、行動派の作者は家事とのはざままで逡巡する。家事を済まして、さあ花見。留守中に雨が降らない様に。

山の辺や土筆坊やの廃寺跡

青木 幸子

3月例会。早春の山の辺、小さな季節の使者が顔を出す。廃寺跡は伽藍も消えて、土筆坊主は仏の化身かもよ。

仁和寺の明治の木組み養花天

阿部 和生

歴・文4月例会。「養花天」は花時の曇り空の意。季語。桜は散るも佳し、明治は有るが良し。観察眼も流石。

勅使門雅のひとに春の雨

阿部 和生

俳句の場合「ひと」は女を指す。妙齢の和服姿の親子と寺内を散策された由。無情の雨を氣遣う作者。阿部さんは優しいね。

傘を差す御室の花に紛れたり

川井 秀夫

御室の桜は根の張りが浅く丈が低い。すのこの板敷に蕊を踏む。傘に隠れて仲間を見失う。花は十分堪能致しましたが。

癒しの散歩道

谷川 萬太郎



佐渡の恋歌

あなたは覚えていますか あの日あなたと誓い合った大切な約束を

まだ幼かったあの頃の若い二人は別れの言葉など決して口にしないと

忘れな草を手にして流した涙のわけを心の片隅に憶えていますか

今もこの白い岸壁は忘れない 寂しさをこの青い海に流すのは止めて

もうこれっきりにしてお願いだからと

初めて恋した人だったから貴女一筋に時を過ごした日々が懐かしい

愛に飢え悲しみに耐えながら今もじっと静かにあなたを待っている

寄せては返す荒波が砕け散る尖閣湾に貴方の名前を呼んでみた

今日もまた青空に光る心かようカモメの群れも貴女を探し啼いている

情けが命の佐渡の女に恋をして

ならやま茶論

竹本 雅昭



「尽きない悩み」

翁： おゝ!! 早春のスター誕生だね。コバルトブルーの「星のひとみ」と呼ぶ地方もありとてもまぶしい。

オオイヌノフグリ： ありがとうございます。かわいそうな名前だねと同情して下さる方も多い中で、ほんと嬉しいです。

翁： 余り気にするな病気になるぞ、逆に一度聞いたら忘れられない名前だ、めったにないことだぞ。

フグリ： いやー、なんぼなんでも気が重いことになりました。犬がプラプラ来る度ゾツとするんです。隣の「ホトケノザ」さんなんかとても羨ましく思うんです。

翁： 似たような話だが鳥の仲間に「アホウドリ」と言っていて大きなのがいるけど、これなどととても侮蔑的だと思わんか。別名「沖の太夫」と恰好いい名も

付いてるけどね。

フグリ： その鳥さんは孤島にいて余り人々と接触ないから、別にどうってことないですよ。あたしなんか他に「イヌノキンタマ」て呼ぶ地方もあるそうでいやになりますよ、全く。

翁： まあまあ、そんなに気を落とすこともないぞ。『犬ふぐり星のまたたく如くなり』(高浜虚子)と大先生もうたってくれたはるし。ヨーロッパでは高貴な名が付いてるぞ、英名「キャッツ・アイ」と高価な宝石だし、学名「ペロニカ」はキリストにまつわる女性の名で羨ましい限りだ。

フグリ： 日本での市民権を得たことだし、精々ハチヤアブさんと戯れて明るく生きますわ。

翁： うん、それでよいそれでよい。



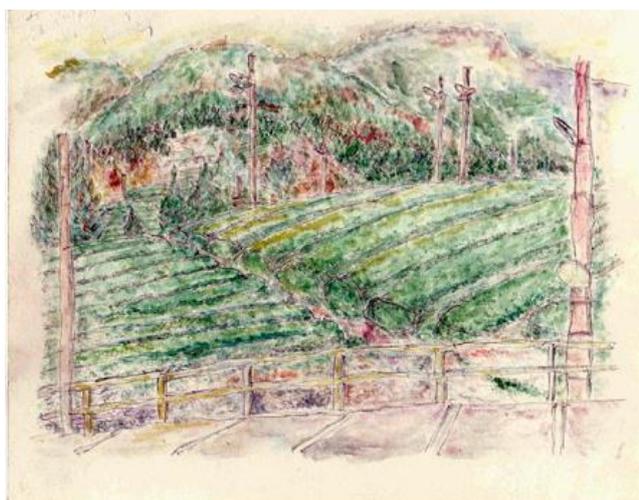
オイルパステル画 サイズ6号 (有元 康人)「奈良公園」
墨彩画 (羽尻 嵩)「花びら流れ」 水彩画 (八木 順一)「和東の茶畑」
陶芸 (小島 武雄)「南天猫」(白土、呉須と絵具、青磁釉)



「奈良公園」有元 康人



「花びら流れ」羽尻 嵩



「和東の茶畑」八木 順一



「南天猫」小島 武雄



仲間入りしました

出会は、昨年10月の教育実習に参加した時です。「ならやまプロジェクト」ってどんな所かなと胸膨らませながら、道中ドングリ拾いに夢中になったのを思い出します。大勢の人たちがチームワークよく、作業されているのに驚き、感動でした。椎茸狩り、野菜の収穫などをさせてもらい、美味しい豚汁をいただき、もてなしに感謝しました。二回目の参加は、年末。大きな葉牡丹を買い、玄関で招き猫の様に構えています。干支の未作りも楽しかったです。機関誌「ネイチャーなら」を愛読しています。多彩な活動をされているので、研修会にも参加していこうと思います。モットーである「明るく、元気に、楽しく、無理をせず」にやっていきますのでどうぞよろしくお願い致します。

農女に憧れている 大阪在住の **吉田 登志子**

「違う空気を求めて」

私は若い頃から自然が好きで、よく山歩きをしたり、冬はスキーをしたりと、よく郊外へ出かけていました。近年は機会があれば、主人と仲間で見、ハイキングをしていましたが、数年前に大病を患い、その後は家事のほとんどを主人が受け持っていて、私は体調に合わせて補佐役をしています。

最近は病気ともうまく付き合っていて色々な事に挑戦したいと思い、いつまでも五感と五体が衰えないように心掛けています。正に「奈良・人と自然の会」はぴったりだと思い、主人の勧めもあり入会させていただくことになりました。体調に合わせて色々な分野に参加させていただきまますので、どうぞ宜しくお願い致します。

竹本 史子



3月11日に私市植物園の自然観察会に初めて参加させて頂き、本当に楽しくその場で入会致しました。住んでいる交野市と奈良との間の交通の便が良くなく、暫くは「自然観察チーム」のみの参加になりますが、どうか宜しくお願い致します。奈良という歴史ですが、自然も素晴らしいですね。植物が大好きなので、奈良での観察会にも参加できるのを楽しみにしています。歴史も好きですが、古代史には長い間疎かったです。奈良の持つ歴史の息吹にも触れてみたいと、こちらも楽しみにしています。

後藤 香代子

現役時代は、ゆったりと時間を過ごすことなく37年間走り続けていたのに、退職後、時間の過ごし方を考えないまま一年経ちました。2月に孫のボーイスカウトの付き添いで木村さんと出会い、会の活動を初めて知りました。「興味関心のある分野に取り組んでもらったら良いのですよ。」とお聞きしました。今まで仕事にしか目を向けていなかった私には、自然の中にいると気持ちが良いことを肌で感じ凄く新鮮です。

初参加した日、子供の時のように色々寄り道をして過ごした学生時代に戻ったように感じました。参加するたびに色々発見し、会員の方との会話もでき、作業や活動が楽しいです。ご指導よろしくお願い致します。

廣田 朋子

会社を辞めて2年になります。何かしたいと思っていましたが、何をして良いのか色々考えていました。そのような時に、ある人に一声掛けていただき、「奈良・人と自然の会」のことを知りました。早速皆さんが活動しておられるのを見学させていただき、即座に入会させていただくことに決めました。会社員の時とは全く異なり、今はならやまで皆さんと一緒に活動できることが楽しみになりました。よろしくお願い致します。

中島 進



「メディアは
メッセージである」

カナダ出身の英文学者で思想家のマーシャル・マクルーハン。コミュニケーション理論やメディア論の大家で1960年代に活躍し、「メディアは

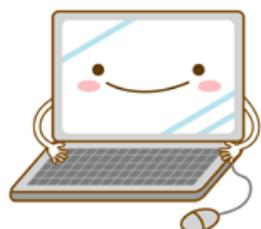
メッセージである」「地球村」などの言葉や概念を生み出した人。メディアとは媒介のことである。つまり、新聞やテレビといったマスコミだけに限らず、書籍・携帯TV・ネット・ブログなど情報を媒介するもの。

マクルーハンについて平易な解説書「今こそ読みたいマクルーハン」を小林啓倫さんが刊行されている。「メディア」に対する洞察が時代を先駆けており、その本質を捉えているため有効な思考ツールを与えてくれると、静かなブームが沸き上がっている。理論の本質についての詳細は、一読戴くとして、彼の言う「メディアはメッセージである」を、日常生活におけるコミュニケーションに関わる具体例として考えてみると、次のようなことが言えるのではないと思われる。

礼状を頂いたときに、季節の花が美しく刷られた便箋に手書きで書かれたものとメールでのものでは、意味は大きく違ってくる。お礼や感謝の気持ちは同じように伝わってくる。けれども、花を添える教養、手書きする時間をさく余裕が生活の中にあること・・・それらが融合されて、手書きの礼状からは深い感謝の念を抱かれていることが、メッセージとして伝わってくる。

これと同じ重みを持った「特別な感謝の念」をメールで伝えようとすれば、文中に季節の花を愛でたりや麗々しい感謝の辞が必要であろう。或いは逆に多忙中につきメールにて失礼せざるを得ない、という一言を書き加えることが求められる。

メディアはメッセージであり、メディアの選択によって伝えることの意味は、重みや軽さも帯びてきてしまうものである。(華龍工人)



旬菜旬食

ならやま竹林の筍料理 ⑤



◆筍の茹がき方

大きいのは皮を剥いて、小さいのは皮のままたっぷりのお湯に米ぬかと鷹の爪を1、2本入れ

40分位茹でる(長く茹でるほど柔らかく甘みが増す。茹でた筍はお湯が冷めるまで鍋の中で冷ましそのあと調理又は保存)筍を薄めの味付けで硬い目に煮つけ汁ごと冷凍しておくとも保存がきく



◆筍料理の色々

- *筍の刺身(茹がいた筍を薄くスライスして刺身、堀り立ては生のままスライス わさび醤油で)
- *筍の煮つけ(わかめ・ふき・なまり節・かつお)
- *筍の木の芽和え(ヒメカワ(穂先)で作ると食べやすい。木の芽・白味噌・砂糖・味醂)
- *筍ご飯(筍・人参・蒟蒻・油揚げ・鶏肉等)
- *筍天ぷら(薄味で煮てから、堀り立ては生でも良い。天ぷら粉に山椒の葉を刻んで入れる)
- *焼き筍(魚焼きかフライパンで丸のままか、薄くスライスし焦げ目がつく程度に焼く、ポン酢か美味しい味噌で)
- *すき焼きに入れたり、たくさん場合は椎茸等と佃煮にして、ご飯に混ぜて混ぜご飯などにしても美味しい

◆私にとっておきの簡単筍料理

材料(2人分)

茹がいた筍200g・豆腐小一丁・山椒の葉調味料・・・ごま油少々・醤油・砂糖・酒・味醂(各大匙2)

◆作り方

茹がいた筍を格子切にする
豆腐は水切りしで手につぶしておく
鍋にごま油(大匙2)を入れ熱し、香りが立ってきたら筍と豆腐を入れ少し炒める。砂糖、酒、味醂、醤油で味付けし10分位煮含め、最後に山椒の葉を刻んで入れたら出来上がり。

池田 富子

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

5月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)
6月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8:28発、高の原行き (平日)
- ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8:36発 JR奈良駅西口行き (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



- ◆ 連絡先：木村 裕

5月7日

<里山 Gr> 「里山林」コナラ(レベル2) 伐採倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr> 茄子・唐辛子・南瓜・トマトなど 植え付け

そば：第5・佐保自然の森

(ソバ予定地周辺部の草刈り、ツツジ手入れ)

ヒマワリ準備できていれば播種

菊：挿し芽、植栽圃場整備

<景観 Gr> BC草刈り マリーゴールド・コリウス種まき、草取り 池の整備

観察路用根太のビオトープへの搬出

5月14日

<里山 Gr> 「里山林」コナラ(レベル2) 伐採倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr> サツマイモ植え付け

蔓ありインゲン・枝豆・落花生など播種

そば：第5・佐保自然の森 ヒマワリ播種(遅くとも) 菊：植栽圃場整備

<景観 Gr> 竹林伐採 日蔭植物草取り・馬の鈴草巻き杖作り ならやま池水生生物調査、池の整備 第5 南斜面草刈り

5月21日

<里山 Gr> 「里山林」コナラ(レベル2) 伐採倒木・椎茸櫛木の本伏せ 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr> 水田整備、水路整備 竹林の養生(施肥) 梅 施肥

<景観 Gr> 竹林伐採 紫花菜撤去、風船唐綿種まき、草取り 池の整備 第5 通路の草刈り

5月28日

<里山 Gr> 「里山林」コナラ(レベル2) 伐採倒木・枯損木の整理 薪割りおよび材料の玉切り、その他

<エコファーム Gr> 田植え準備、豌豆の収穫開始 植栽樹の目印杭の補強・更新

パトロール班との協働による植樹木調査(果樹園チーム)

<景観 Gr> 第5地区草刈り 山野草園の草引き・柵作り ならやま池水生生物調査、池の整備 第5地区 竹藪の南区域 低木・草処理

※パトロール班・・・立入禁止区域確認と侵入防止テープ取り替え、保護植物柵の補修、観察路点検など。



行事案内

第14回通常総会等のご案内

第14回通常総会等を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご案内を申し上げます。

感謝状の贈呈

本総会に先立ちまして、10年間会員継続をしていただき、当会活動にご尽力賜りました方々に感謝状を贈呈する機会を設けております。

前年までは新春講演会の開催時に実施させていただきましたが、本年より総会時にさせていただきます。

1. 日 時 5月17日(日) 14時30分
2. 場 所 奈良市杉ヶ町23番地
奈良市生涯学習センター3階学習室
3. 感謝状をお受けになります方々(6名・50音順)
倉田 晃様 小森 清道様 高須 良子様
林 令子様 古川 幸子様 八尋 ハル様

総 会

1. 日 時 5月17日(日) 15時
2. 場 所 上記の奈良市生涯学習センター
3. 議 題
第1号議案 第14期事業報告および収支報告
第2号議案 第15期事業計画(案)、予算(案)
第3号議案 役員選任の件 (以上)

懇親会

通常総会の終了後、受賞の皆さんをお祝いするとともに、新年度のスタートにあたり、懇親会を開催しますので是非ご参加ください。

1. 日 時 5月17日(日) 17~20時
2. 場 所 和ダイニング 花小路
(2階奥の間)
奈良市小西町23 (0742-23-9551)
3. 会 費 3,000円
4. 申込締切日・・・5月14日(水)
太田 青木

*議案書は会報誌5月号に同封します。総会の出欠及び懇親会の参加の可否について、同封のハガキにより5月14日までにご連絡ください。

平城京天平祭 春 2015

天平祭「ものづくり広場」は、たくさんの子供達にもものづくりの楽しさと大切さを体験し、学び、思いっきり遊んでもらう広場を作るという趣旨に当会が賛同し3年連続で参加するものです。

とき：5月3、4、5日(日、月、火の3祝日)
10時~16時まで

ところ：平城宮跡サッカー広場(佐伯門近く)
だしもの：こいのぼりとブンブンゴマのセット
が3日間で300セットです。

会員の皆様もお揃いでお出かけください。



裏方：準備も晴れの日ばかりではありませんから大変です。里山グループの皆さんを中心に大勢の方が準備

にあたっています。こいのぼりの鯉や吹流しの穴あけ加工は、出来栄に直接響きますので、今年

は入念に仕上げています。ブンブンゴマの準備も大忙しで、重心を考慮した穴あけと竹の贅肉減らしです。キ



ッチリした加工をしないとコマが回りません。結果がはっきり出るので気が抜けない作業なのです。(事務局：塩本勝也)

6月・月例研修会(予告) 「当麻寺と二上山山麓を巡る」

1. 実施日：6月8日(月)
2. コース：当麻寺-護念院-石光寺-傘堂-
-当麻蹴速塚-鳥谷口古墳

※詳しくは6月号をご覧ください!

行事案内 part 2



5月・月例研修会 京都府立植物園の自然観察会

久しぶりで京都府立植物園の自然観察会を楽しみます。春たけなわのすばらしい季節のなか、自然の素晴らしさをたっぷり味わいましょう。「京とおうみ」のみなさんに指導していただきます。多数の皆さんのご参加をお待ちしています。



1. 日時：5月12日(火) 10時～15時
*前日夜の天気予報で、12日が中止となった場合は5月13日(水)に実施します。
2. 場所：京都府立植物園
(京都市左京区下鴨半木町)
3. 観察のテーマ：「京都植物園の楽しい自然観察…植物の不思議や魅力を体験しよう！」
4. 観察の指導：この植物園をメインフィールドにしておられる「京とおうみ」のスタッフ2名の方に案内していただきます。
*いろいろな質問をぶつけてください。
5. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具など
6. 集合：10時 植物園の「北山門」前に集合
(京都市営地下鉄「北山駅」下車3番出口すぐ)
7. 入園料：200円 70歳以上は無料
(但し証明するものが必要)
8. アクセス：京都市営地下鉄 烏丸線が良い。
①乗車駅：JRは京都駅で地下鉄京都駅へ
近鉄は竹田で地下鉄竹田駅
京阪は丹波橋で近鉄に乗換え
阪急は四条で地下鉄四条駅へ
②降車駅：地下鉄北山駅
(竹田～北山 22分 320円)
9. 担当：自然教室チーム・川口、倉田、櫻木



歴文一泊研修「神話の故郷出雲を訪ねる」 ご案内

5月の研修会は、神話の故郷出雲を訪ねます。出雲地方は従来から古代史上謎の国と言われてきました。しかし、1983年神庭荒神谷で考古学上画期的な発見があり、それ以降活発な議論がされ、本も数多く出版されています。このような情報などを紹介しながら、車中で皆さんと大いに歴史談義を楽しみながら、探訪していくことに致します。

日時：5月31日～6月1日(現地1泊)

集合：大和西大寺駅南口 8時30分

見学：島根県立古代出雲博物館、出雲大社、
国譲り伝説の稲佐の浜、四隅突出型墳丘墓の西谷墳墓群、史上最多の青銅祭祀具が発見された神庭荒神谷遺跡、等

定員：28名(既に満員となっています)

連絡先：歴史文化クラブ事務局 古川祐司

奈良学 クイズ



【問】3人の人達は、いずれも奈良に深い関わりがあります。お名前を漢字でお答えください。

【締切】5月3日

【応募方法】メール or FAX

【景品】自然木クラフト作品

【4月号答】(1) 会津八一

(2) 渡辺ふみ(亀高文子)

平成27年・4月度幹事会報告

◆日時：平成27年4月7日(火) 17:00～21:00

◆場所：奈良市中部公民館

◆案件：

I 会長挨拶

・2回目の三井物産環境基金が3月で終了した。3年間の活動を支えてくれたことに感謝します。

・林野庁を含めた助成金の有効活用と自己財源の強化を図り将来の不測の事態にも備えていきたい。

II 報告事項

①会員動向：149名（前月より4名減）

②会計報告：3月度の主要収支説明（会計数値）

・27年度会員のボランティア保険を掛けた。

③月例研修会、イベント等の活動報告：

・3/26新会員15人中9人の参加で歓迎会をした。

III 検討事項

①ならやま：3月実績報告および4月度活動予定

・活動予定が週単位となっているが、天候などの観点から月単位、旬単位にして欲しいとの意見が出され検討していく事になった。

②春の天平祭（5/3～5）への参加について

3日間は日替わりで実施責任者を決めた。

③GGプロジェクトの運営について

7、8月とも飯盒炊爨+カレーで準備を進める。

④第14回通常総会について

議案書、実施要領等について詰めた。今後は4/14までに見直し、4/21の幹事会で最終決定する。

4/28会報印刷に合わせ、議案書を印刷・発送する。

⑤林野庁交付金事業の対応について

・26年度分は報告後、実施状況確認通知を受けた。

・27年度事業申請を承認した。関係者により本事業の取り組みについて打合せ実施し、推進する。

⑥H28年新春講演会について

講師予定者が重要な公職に就任されたことをうけ、当会より要請を取り下げたので、再度人選をする。

⑦創立15周年、開設10周年の記念行事は、実施する。内容については6月度以降検討する。

IV【確認事項】

・ネイチャーなら6月号の編集、分担を決めた。

・4～6月のスケジュール表の日程を確認した。

以上

◆ 申し合わせ ◆

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆新年度がスタートし、各種団体の役員会や総会が目白押しとなる。顔ぶれが変わると雰囲気も勿論微妙に違って来る。構成メンバーに限無く発言してもらえるというか、言葉を引き出すように進行していく司会者や議長の手腕にもよる。駆け出しの頃を思い出す。ある会議の席で、「少なくとも一度は是非とも発言しなさい。」と、最初に釘を刺された。大先輩のその一言を忘れることのないようにと、自分に言い聞かせてきた。サイレントの状態での経つのをひたすら待ち続けるほど苦痛なことはない。毎月開催している編集チームの打合せ会では、フランクに意見交換を行っている。色々なアイデアが飛び交う。「もう2時間も経ったの」との声。

◆ならやまには多くの匠がおられる。少しずつアイデアを頂戴しつつクラフトにチャレンジ。忙中閑あり、木の持つ個性（木性）を出来る限り活かしたらとの思いを込めて・・・。（里山人）

会報誌【ネイチャーなら】・第160号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：鈴木末一